

東京バッハ合唱団 月報

[第 621 号] 2014 年 3 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp <http://bachchor-tokyo.jp/>

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 621

March 2014

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

創立 50 周年記念 [連続演奏] 最終回 《ヨハネ受難曲》

音楽の精神に還る

高梨 公明 (団友、春秋社編集部)

《ヨハネ》を聴き終えるといつも沈黙を強いられる、
というのは私だけではないだろう。この受難曲に託され
たバッハの「ヨハネ福音書」解釈の絶妙な音楽化と
ドラマツルギー。至高の美しい音楽の結晶……。ゴ
ルゴタの十字架を自らの内に打ち立てよ、と迫って
くるかのようだ。人間の尊厳の問いとして。

さて、東京バッハ合唱団の記念すべき大プロジェ
クトも《ロ短調》《マタイ》《クリスマス・オラトリオ》
と続いてきて、《ヨハネ》で大団円を飾ることになり、
祝福すべき感動的な日となった。

私はその全てを拝聴させていただくことになっ
たが、いずれのコンサートでもその演奏ぶりには大いに
感銘を受けたものだ。バッハ音楽のすばらしさはもち
ろんのこと、大村先生のコンダクターシップのもと、
独唱者、合唱団、オーケストラのみなさんがともに音
楽を創り上げていく姿に。ああ、音楽を分かち合うと
いうのはこういうことなんだ、と思い至った次第。こ
こにあらためて大村先生と団員の皆さんの情熱と偉業
にエールを送ります。

大村先生の音楽観・演奏観に接してきて、たびたび
思うことだが、テキスト原語主義とか正統云々という
ようなことは、もはや私たちの音楽生活にとってはさ
したる意味をもたないのではないかと。既成の価値観に
囚われすぎた、あるいは偏狭な教養主義的文化観にす
ぎないのではないかと、思うことがある。とりわけ、
音楽する現場ではもっと生き生きとしたダイナミック
な文化の共有ということが言われてもよいのではない

か、と。問題は音楽の精神をどう表すか、そこにある
と思えてならない。音楽の伝えるべき内実のほうが大
事なのであれば、言語の問題も自ずと解消されるので
はないか、とも。

大村先生は、こう述べられている。「バッハのカン
タータや受難曲などが、元来、心の叫びとしての祈り
の歌である限り、魂そのものである母語（自国語）に
よって、歌われ・聴かれることの意義は決して小さく
ないはず。バッハ音楽の源泉には、自国語で聖書
を読み、日常のことばでコラールを歌うことを決断し
たルターらの改革の精神があったのであり、何よりも、
バッハ音楽自体のもつ卓越した情緒表現力と意味・思
想の形象化の巧みさが、ドイツ語やラテン語といった
個々の言語の枠を越え、他のさまざまな言語による訳
詞上演を容易にしているのです」（プログラムより）。
母語で歌うことにより、バッハの祖国の人々と同じ魂
の深みで音楽に共感できる、というわけである。

かくて、すっかりバッハの日本語演奏に馴染んだ私
は、3月15日、早めにコンサート会場に着き、立派な
プログラムに掲載されている大村訳歌詞を改めて眺め
た。改めて、というのは、実は今回、かつて東京バッ
ハ合唱団創立 30 周年記念コンサートを撮ったライブ
のDVDをご提供いただき、「予習」することが出来た
からである。1992年だから、20年以上も前（コント
ラスの溝入さんはじめ皆さんお若い！）。これは単にド
キュメントとしてだけではなく、「標準」を示した演奏
になっているようで、新しい団員を含む合唱団にとつ



第 110 回定期演奏会
《ヨハネ受難曲》
創立 50 周年記念公演 [5]
2014 年 3 月 15 日、杉並公会堂

鏡 貴之(エヴァンゲリスト)
渡邊 明(イエス)
光野孝子(S)、佐々木まり子(A)
鳥海 寮(T)、敷西正道(B)
草間美也子(Org)
東京カンタータ室内管弦楽団
東京バッハ合唱団
大村恵美子(訳詞/指揮)

(写真撮影: 床田真理さん)

ては、今回の公演に向けての練習の拠り所ともなっているという。

今回、そうした「予習」のおかげもあって、《ヨハネ》演奏を存分に楽しむことが出来た。《ヨハネ》では合唱の出番が多い。合唱パートがドラマの中心をなしているといってもよいかもしれない。冒頭合唱からして、「わが主いと高き君よ / その誉れ地に映ゆる者よ」と、「ヨハネ福音書」の大命題が表明されるわけである。印象的な序奏のあとに出る3つの「Herr」の呼びかけを大村先生は、「わ・が・主」として巧みに1センテンスに置き換える。こうした訳詞の工夫といい、とりわけ合唱部分の発語はどこをとっても自然な日本語になっていて説得的であった。いつもながらコーラルの四声体の響きは、優れた訳詞によって全く違和感はない。歌う人の思いが込められた分、よりバッハが言わんとするコーラル内容を直截に示している。そして、《マタイ》に続いて、《ヨハネ》でも、エヴァンゲリストの鏡貴之さんは立派だった。明確にして流麗、ドラマティックな朗唱にすっかり惚れ込んでしまった。これまた、日本語でのストレートな歌唱ならではの妙味と言うべきか。とにかく、「大村版ヨハネ」は、音楽の精神をバッハから直接に受け取って訴えかけるといふ、ほんとうに聴き応えのあるものだった。

コンサートでは休憩時間に「元団員」という方と喫煙を共にして、感想を述べ合う機会がある。「みんな好きだからねえ、またそうでないと、ここまで続けられないんだよ」。彼は現在、毎回客席からみんなを見守り、激励している……。

まさにそうなのだ。音楽が好きで、合唱が好きで、バッハをこよなく愛することのできる力。ただひたすらに愛することのできる人たち、それが素晴らしくないはずがない。私が大村恵美子・東京バッハ合唱団に惹かれるのは、そうしたことを忘れないようにするため、願わくばもっともっと大勢の方たちにそれをわかってもらいたいがためである。これからも今と同じように、熱心に愛にあふれた素晴らしい存在であってほしい。

期待を裏切らない、印象深い演奏

由本 光一郎

予てより私が東京バッハ合唱団に注目していたのは、主宰者の信念に基づき、すべて母語である日本語で演奏する、という点です。歌は原語でなければ、と先入観を持っていた当方にはやや違和感があったものの、訳詩を一読してこれならば、と思い直し、また訳詩者でもある大村恵美子さんが演奏指揮も担当されているのが非常に興味深くもあり、今回参加させて戴いた次第です。

当日の演奏は期待を裏切らない、印象深いものでした。深い悲しみを湛えたさざ波のような序奏に続く、わが主、と激しく呼びかけるあの第1曲のフーガを聞いた時から、すでに当方の意識は2000年前の聖書世界に立ち、それからはキリスト受難の物語の展開に聞き入るばかりでした。

僭越ながら、この日の演奏を通じ強く印象に残った点を下記致します。

○このように入念になされた訳詩であれば、日本語演奏にもまた大きな存在意義があるのでは。

○同時にここでの訳詩は日本語詩そのものの深化にもつながるのでは。かつては上田敏が、最近では大島博光氏が取り組んだような、歌いくち滑らかな声に出して読む訳詩。

○アンサンブルの乱れが皆無では無かったけれど（失礼）、それを補って余りある熱演。特に大村さんの指揮は素晴らしかった。

○全曲を通じてエヴァンゲリストの透明感あふれる歌唱が印象的。

この度はヨハネ受難曲の素晴らしい演奏を聴かせていただき、ありがとうございました。

(B 岡村隆氏ご招待者)

会場アンケートより

<演奏全般について>

・前回に比べて、合唱の力強さを感じました。とくに第2部の合唱は、素晴らしいと思いました。

・合唱、オーケストラ、ソリスト共にバランスが良く、安定感があった。今回は、合唱で男声に元気があった。

・前回のマタイ受難曲とほぼ同じメンバーで、東京カンタータ室内合奏団、合唱が一体となって、落ちついた演奏として聴いた。大村先生の長年の仕事に拍手、ご苦労様です！

・全体に良かったと思う。第9曲のソプラノの歌唱はとて良かったです。12c.の「ペテロいたく泣けり」のエヴァンゲリストの歌唱は、もっと深みが欲しかった。胸に突き刺さるような感動を得られなかった。

・神様、この時をありがとうございました。大曲をありがとうございました。どんどん盛り上がりました。説明を読まないで（見ないで）きくと一言一言が伝わります。何度かきいている内にこちらにも馴染んできますね。練習大変でしたでしょう。

・毎回楽しみに聞いています。

・大斎節にこのような機会が与えられ感謝します。

・わきあがる合唱、音のひとつひとつに輝きを感じるソリストの声、すばらしかった！感謝です。エヴァンゲリスト、すべてすばらしかった。20. テノールと 32. バスのソロ、すばらしかった！ 30. アルト・ソロ、“こ

と終わりぬ” 悲しみが伝わった。35. ソプラノ・ソロ、“溶けよ心 涙のうちに” すばらしかった。39. 合唱、すばらしかった！ 40. “ああ主よ” 全員が楽譜を下げて（見ずに）歌っていたこと、感動しました。

- ・大変良い企画。ますます磨かれています。
- ・感激。
- ・大変 見事でした。ありがとうございました。
- ・管弦とソロが力強かった。
- ・特に受難週の前に聞くことが出来るのはとても良いところだと思います。
- ・今回も大変 素晴らしかったです。
- ・すばらしかった。感動しました。ソリスト すばらしい。
- ・マタイ受難曲とは違った意味で、新鮮な感動を覚えました。とくに、今回は合唱の素晴らしさを堪能しました。いつものことですが、大村先生はじめ、皆様に感謝したいと思います。40. コラールは大事なところであり、全員参加でもう一度味わうことができ、とても良かったと思います。
- ・大変すばらしかった。バッハ合唱団の水準の高さ、再認識しました（30年ぶりの来聴）。特に福音史家、美しい正確な発音発声で大変印象的。
- ・感動しました。おつかれさまでした。テノールさんの声はすばらしい。
- ・実力がどんどん上がってます。後半とてもよかったです。
- ・冒頭合唱はもう少し迫力が欲しく思いました。後半は良かったです。福音史家のソリスト、イエス様の渡邊氏、本当に素晴らしかったです。合唱はコラールが特に良く、弱音がとてもきれいで揃っていました。合唱の27bは最高でした♡

<とくに、日本語演奏について>

- ・歌の内容が理解できるので、とても良い。特に、鏡さんは滑舌も良く、迫力があつた。
- ・やはり分かりやすくて楽しめる。エヴァンゲリストの鏡さんは、出色。場面が、目に浮かぶようであった。
- ・日本語だから直接内容が伝わる。マタイ受難曲でとても感動したので、ヨハネ受難曲も聴きたいと思った。こちらは登場人物の細部が省略されているので、演奏時間も短い。Violin Groupが印象的でした、特にコンサートマスター。マタイの時よりオケの人数が少ないけれど、良い響きでした。
- ・有名なコラールは、普段でも口ずさめる日本語に訳せないものでしょうか。[『バッハ コラール・ハンドブック』(大村訳詞、春秋社)をお勧めします]
- ・前回よりも馴染めました。歌う方は、日本語を音にのせるのは難しそうだと思います。何度もきかせて頂くと分かりやすくなるのですね。
- ・社会に出て、最初に購入したLPが、マタイ受難曲とヨハネ受難曲でした。小生はドイツ語でも可。

・歌詞をみながら 意味を考えることができました。感謝します。

- ・ドイツ語CDだと意味がわからなかった。冒頭の合唱など、特に意味が伝わると感慨深い。
- ・福音書（読んだことない）を聖画と共に、一枚一枚繰り広げる思い。
- ・内容がよくわかり涙が出そうになりました。最後まで引き込まれるように聞かせていただきました。もう一度きかせていただきたいと思いました。
- ・バッハが泣きながら書いたのではないかと思いつつ聞きました。
- ・内容が伝わってくるのはとても良かった。
- ・分かることばで心のあり様を聞き取ることは、とても意義深いと思う。
- ・とてもわかりやすく良かった。心に沁み込んできました。
- ・エヴァンゲリストがとても聞きやすく、ヨハネ福音書の18章、19章が立体的に浮かび上がってきたような印象です。
- ・他では聴けない演奏です。これからもがんばってください。
- ・字幕よりも分かりやすくて良いと思いました。違和感なく楽しめた。
- ・すばらしい、よく理解できます。
- ・こんなに恵まれた演奏はないと思います。
- ・原語だと内容がわからないが、日本語演奏だと内容が理解できた。
- ・大曲になるとわかりにくいと思いました。コラールは良いです。
- ・私は日本語演奏は好きではありません。素人考えですが、1音符につけられるドイツ語発音と日本語の発音は、似ているけど違う響きで、美しいドイツ語で歌われたらどんなにいいかと思います。聞きに来る人は少しの予備知識をもって来るべきです。

<その他、本日の運営全般、会場について等、何でも>

- ・聖書の内容をこうして改めて味わうと人間の持つエゴイズム、群集の無責任な心理等、現代に通じる普遍性を感じた。
- ・マタイの時に比べて熱気が少なかったのは、曲の成り立ち故か。でも心が澄みました。最後に皆で歌えたこと感動しました。
- ・素晴らしい会場です。どんどん使いたいですね。
- ・指揮の方の50年がつまった素晴らしい演奏でした。ありがとうございました。
- ・「演奏と鑑賞の手引き」、理解を深める上で非常に貴重だと思います。
- ・懇切ていねいな文献配布、有りがたかった。



83歳を迎えられた大村恵美子先生

加藤 剛男 (団員)

今年3月9日に大村恵美子先生は、83歳の誕生日を迎えられました。ますますご健健で、演奏内容も渾身の表現で、聴衆に感動を与え続けておられます。前日の東京バッハ合唱団の練習日には、団員より胡蝶蘭の鉢が贈られました。また3月1日には、荻窪の「さかなや道場」で先生のお好きな魚料理で、団員と会食する「お誕生お祝い会」が持たれました。

「バッハの高さと広さの両面を忠実につたえ、芸術家のためと同時にもっと幅広い一般の人々のためにも存在するようなものになること……。バッハの音楽をとおしてみんなが心を開きあい、通わせあうこと」(1963年1月、第1回披露演奏会：芸術家会館ホールでの大村恵美子先生のご挨拶から)という使命のもとに、恒久的なバッハ演奏を目指して始まった東京バッハ合唱団。

52年間の合唱団の歴史を振り返ることにより、大村先生の成された偉業をたどってみたいと思います。

①**バッハ演奏の草分け**：東京バッハ合唱団は、1962年に大村恵美子先生によって創設され、バッハの作品のみを演奏する日本でも稀有な合唱団。当時としてはバッハ演奏の草分け的存在でした。

②**日本語訳詞の演奏**：常に、大村先生の日本語訳詞により演奏されてきました。バッハの音楽を大衆に根づかせ、演奏者と聴衆の一体感を実現しました。マルティン・ルターが自国語訳聖書を作ったように。「マタイ受難曲」演奏会でも、「ヨハネ受難曲」演奏会でも、日本語訳のバッハだから曲の内容が伝わり、感動が与えられたという感想をいくつもいただきました。

③**錚々たる講師を招いてバッハを研究**：辻莊一、服部幸三、深津文雄、角倉一朗、高橋昭、東川清一、杉山好、礪山雅、樋口隆一各氏らのバッハ研究者を招き、バッハ作品の内容をより深く理解するために研究会・ゼミナールが開かれました。

④**月報を1号の欠号もなく発行**：創立時より月報を発行し、その中でバッハ音楽、文学、哲学、社会、政治、教育、人間の生き方が示され、貴重な示唆が与えられました。[ホームページ上に、創刊1号より18号までがアップされました。ぜひご一読ください]

⑤**ヨーロッパ演奏旅行を実施**：1983年に第1回、わが国のアマチュア合唱団としては初めてライブツィヒ聖トマス教会で演奏。その後も数年おきに続け、2009年に第5回(フライブルクとシュトゥットガルト)。

⑥**歴大な演奏経歴**：1962年から2014年の演奏経歴は歴大なもので、定期演奏会中心に示してみますと下記の曲目です。

教会カンタータ 125曲、世俗カンタータ 3曲、モテット全6曲、ミサ曲(ロ短調、ト短調、ト長調)、マニフィカト(ニ長調、変ホ長調)、受難曲(マタイ、ヨハ

ネ、マルコ)、オラトリオ(クリスマス前半18回と後半16回、復活節、昇天節)、宗教歌曲集(リートとアリア)18曲、など。いずれも数回の再演が多数。

⑦**ソロ・カンタータ全曲演奏**：バッハのソロ・カンタータを全曲日本語訳で。全曲演奏は日本で初。

⑧**1979年から大村恵美子先生指揮**：合唱団の初期の頃は、小林道夫先生初め様々な指揮者により演奏していただきましたが、1979年より主宰者である大村先生が指揮をされることになりました。大村先生の一貫したバッハの音楽に対する高い理念とそれを推進する強い実行力により、合唱団もますます充実し、発展してまいりました。

⑨**創立50周年記念公演**：合唱団創立50周年記念企画として、2011年～2014年に「バッハ4大合唱作品[日本語]連続演奏」を実施。

- 1) ロ短調ミサ曲(2011.12.3、杉並公会堂)
- 2) クリスマス・オラトリオ(前半2012.12.3、後半2013.12.7、いずれも杉並公会堂)
- 3) マタイ受難曲(2013.3.30、紀尾井ホール)
- 4) ヨハネ受難曲(2014.3.15、杉並公会堂)

⑩**日本語版楽譜の出版とCDの発行**：2000年より日本語歌詞付き楽譜の出版がなされ、2004年までに「バッハ・カンタータ50曲選」として代表作50曲が出版されました。その後も公演スケジュールに合わせて楽譜出版が継続されています。

⑪**「バッハ コラール・ハンドブック」出版**：バッハの教会カンタータや受難曲、オラトリオ、モテットなどに用いられるコラール全154曲の各曲に、歌詞(原詞と訳詞)、旋律譜などを付けた「バッハ コラール・ハンドブック」が刊行されました(2011年3月、春秋社)。世界でも類を見ない画期的な出版です。バッハ演奏家、研究者に必備のハンドブックです。

⑫**バッハ宗教歌曲集[日本語演奏]名演20選の発行**：定期演奏会のアンコールで歌われたソリスト11名による「バッハ宗教歌曲集名演20選」の夢の饗宴。CD1枚と通奏低音つき楽譜(日本語/ドイツ歌詞併載)が出版されました。同じ曲でも複数のソリストによって歌われているものもあり、表現の違いを知らされます。価値ある発行です。

合唱団創立にあたって、大村恵美子先生は「どこはさておいてもここだけはネグるわけにはゆかないというふうになれたら…」(月報第1号・1962年7月)と述べておられます。私も52年間、大村先生のご指導のもと、東京バッハ合唱団だけはネグるわけにはゆかない合唱団として、歌ってまいりましたが、その中で与えられた宝は計り知れません。83歳を迎えられた先生の52年間に成された偉業がさらに積み重ねられていき、先生を通して演奏されるバッハの音楽が、これからも一層人々に感動を与えていかれますよう願ってやみません。